

FGC NEWS



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

No.12

April 2018



国際交流・支援活動

- 宮澤保夫理事長がエリトリア訪問
- SEISA Africa・Asia Bridge 2017 開催
- 大阪マラソンにエリトリア、ブータンのアスリートが出演
- ブータンパラリンピック委員会、正式認可
- ブータン オリンピック支援プロジェクト報告
- エリトリア、ブータンから新たなスポーツ留学生来日
- ミャンマーさらなるスポーツコラボレーションへ



Press Conference by IOC Olympic Solidarity (OS) and OS World Programmes for athletes preparation for Tokyo 2020



東日本大震災支援

- 「北の大地に会いに行こう 2017」





宮澤保夫理事長がアスマラを訪問



アスマラスタジアムでトレーニングに励むアスリートたち

世界子ども財団では、アフリカのエリトリア国への支援活動を様々な分野で続けています。中でも2020年東京オリンピック、パラリンピック大会をひとつの契機として、神奈川県での代表チームの事前キャンプ受け入れ、エリトリアからの陸上競技留学生の長期受け入れ等、スポーツを通じたエリトリアの子どもたちや青少年の育成支援に力を入れています。2018年1月14日から23日にかけて、宮澤保夫理事長が首都のアスマラを訪問し、同国のゼメデ・テクレ文化スポーツ庁長官をはじめ、オリンピック委員会や陸上競技連盟とも、今後のプロジェクトについて協議を重ねました。

また、アスマラスタジアムの視察も行いました。エリトリアには多くの才能ある若いアスリートがいますが、国内唯一の陸上競技場であるこのアスマラスタジアムの環境は悪く、選手たちが国内で公式の記録をつくることできないばかりか、トラックの劣化により練習も十分にできない状況にありました。そのため、



2015年北京での世界陸上競技大会男子マラソン金メダリストのゲルマイ選手と再会

今回の訪問中に、宮澤理事長よりゼメデ長官に、トラック補修のための寄付金を贈呈。現地では2月より、トラック補修の工事が始まります。将来的にはエリトリアのアスリートたちが、国内で記録をつくり、国際大会に出場できるよう、環境整備の面でも支援を続けていきます。

Unicef エリトリアとの協働へ向けて

滞在中には、Unicef（国際連合児童基金）のエリトリア事務所も訪問。互いのエリトリアでの取り組みについて情報交換を行い、組織のちがひ、方法のちがひはあっても、両者の目指す方向には多くの共通点があることを確認することができました。健康と医療、教育そしてスポーツといった分野での協働プロジェクト発足に向けて、有意義な協議を行うことができ、私たちのエリトリアでの活動も新たなステージに向かって進んでいきます。ユニセフとのコラボレーションについて

は今後更に調整を重ね、エリトリアの子どもたちや青少年の未来のため、協力していくこととなりました。

(FGC 石井洋祐)



Unicef エリトリアの所長はじめ職員のみなさんと

大阪マラソンにエリトリア、ブータンの選手が出場しました!

2017年11月26日に第7回大阪マラソン（大阪府、大阪市、大阪陸上競技協会主催、読売新聞社共催）が行われ、約13万人の中から抽選で選ばれた国内外約3万2千人のランナーが大阪の街を駆け抜けました。フルマラソンは、午前9時、大阪城公園前をスタート。御堂筋、中之島、京セラドーム大阪、通天閣などの名所を回ったあと、大阪南港のインテックス大

阪にゴールするコースで行われました。

世界子ども財団／星槎グループのサポートのもとで招待したエリトリア3選手のうちの1人カレアブ・ギラガブル選手が2時間12分3秒でゴールインし優勝を飾りました。他の2選手も、テスファマルヤム・ガシャズギ選手は、2時間19分33秒で3位、フカドゥ・クブルアブ選手が2時間25分で8位と、入賞を成し遂げました。

また、世界子ども財団と星槎グループは、本大会にブータン王国からサンゲイ・ワンチュック選手とニマ・ヨゼル選手の2名を招聘し、サンゲイ選手がブータン国内記録を4分以上更新し2時間34分00秒／33位の新記録を樹立しました。

大会終了後、ブータン並びにエリトリアの選手一行は、星槎グループ大磯キャンパスを来訪し、神奈川県・小田原市・箱根町・大磯町とで共同で行っている「SKYプロジェクト」に参加し12月1日に帰国しました。

(FGC 石田博彰)



大会終了後、星槎グループ本部を訪問したエリトリア、ブータンの選手たち



SEISA Africa・Asia Bridge 2017開催! アフリカ、アジア、日本、現在と未来の架け橋に



オープニングセレモニーで挨拶をする
エリトリアのエスティファノス駐日全権大使

SAAB（サーブ）こと SEISA Africa・Asia Bridge 2017 が、2017年11月11日（土）、12日（日）の二日間にわたって横浜市の星槎中学高等学校で開催されました。第三回となるこの星槎グループ最大のイベントに、今年も世界子ども財団は主催団体の一つとしてブースにて活動紹介を行ったほか、アフリカ・アジア各国からのゲストを迎えた様々なプログラムに携わりました。

前回 2016年に引き続き、SAAB のコンセプトは「^{ちげい}知繋」。お互いを知ること、繋がること、そして仲間になることを意味する新しい言葉です。

両日ともに好天に恵まれ、2日間に各国の大使館 24カ国、その他 10カ国以上、そして日本を合わせると 30カ国が参加し、計 7,247名の皆様にご来場いただくなど、規模としても過去最大のものとなりました。

大使館を中心にアフリカ、アジア、太平洋各国の文化に触れるブースや、食文化体験、ダンスやパフ



「sTED」のプレゼンテーション



「豊かさ」とは？子どもから大学教授までが参加したマルチエイジディスカッション



世界は遠くて近い！ アグラサーラのこどもたちと

オーマンスなど、五感のすべてを刺激する交流プログラムはさらにパワーアップ。全国の星槎の中高校生、近隣の高校生が集まり、国連の掲げるSDGs（持続可能な開発目標）をテーマに、10年先、20年先、50年先の世界について考え行動するsTED（Seisa Transnational Education Design：通称ステッド）も昨年以上に、白熱のプレゼンテーションが行われました。また同じくSDGsをテーマに生徒会議や、各世代からゲストと来場者が共に「豊かさ」について考えるマルチエイジディスカッションも実施しました。

11日（土）には、「知繋プロジェクト」として、世界こども財団が支援活動を行なっているバングラデシュのアグラサーラ孤児院と会場をスカイプで接続。日本のこどもたちとバングラデシュのこどもたちが、お互いに挨拶をかわし、一緒に歌を歌うプログラムを行いました。

今回はエリトリア、ブータンから来日した陸上競技の留学生たちもSAABに加わり、スポーツを超えて様々な交流プログラムに参加しました。さらにブータンのロイヤル・ティンパー・カレッジからは2名の生徒がSAABのために来日し、ブータンの文化紹介をしてくれました。

また、野外ではスポーツ交流を実施したほか、特設ステージでは、パフォーマンスのほか、オリンピック、パラリンピアンを招いたトークショーを開催し、スポーツの分野でも世界との関わりについて考える機会と

なりました。フィナーレでは1,000人以上がハイタッチでひとつにつながるプログラムを実施。前回を超える大盛況のうち、SEISA Africa・Asia Bridgeの二日間が終了しました。

今回も外務省、文部科学省、神奈川県・横浜市・小田原市・箱根町・大磯町の各自治体および教育委員会、独立行政法人国際協力機構（JICA）のみならずにご後援いただいたほか、地域を超えて多くのみなさまのご協力をいただきました。あらためて感謝を申し上げます。世界こども財団と星槎グループでは今後も、2020年、そして未来へ向けてこの取り組みを続けていきます。（FGC 石井洋祐）



（左から）ブータンからSAABに参加したベルデンさん、タンディンさん、星槎道都大学に留学中のゴマさん



フィナーレで来場者にメッセージを送る宮澤理事長



ブータンパラリンピック委員会認可!



BOC ソナム事務局長と宮澤保夫理事長

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会におけるブータン支援プロジェクトで大きな前進がありました。

2017年9月7日、8日とアブダビで第18回国際パラリンピック委員会（IPC）総会が開催され、世界子ども財団および星槎グループで予めからサポートしていたブータンパラリンピック委員会の正式認可が承認されました。ブータンの加入により、アジアパラリンピック委員会のメンバー数は43に増え、11月時の訪問にて宮澤理事長は、ブータンオリンピック委員会（BOC）ソナム事務局長より謝意の言葉とメン

バシップ証明書を共有させていただきました。

尚、ブータンでは、アーチェリー競技、そしてライフル射撃競技にてパラリンピック選手の発掘に成功、トレーニングを既に開始しています。世界子ども財団、並びに星槎グループでは、全日本アーチェリー連盟からご提供いただいた用具や競技キット20セットをブータン・アーチェリー連盟へ寄贈しました。また、NPO法人希望の車いすのご協力により、ライフル射撃パラ競技出場を目指している選手に車いすを寄贈させていただきました。

ブータン王国オリンピック支援プロジェクト

世界子ども財団、星槎グループでは2017年を通じ、スポーツを通じたブータン王国への支援、交流のプロジェクトを本格化させました。競技種目ごとに以下ご紹介いたします。

● サッカー

2017年7月、サッカーU-16ブータン代表が星槎箱根仙石原スポーツクラブにてトレーニングキャン

プを行いました。滞在期間中に計4試合のトレーニングマッチを行い、箱根町役場への表敬訪問や日本文化の体験、都内観光、Jリーグ観戦等も実施。今回の来日には、星槎国際高校湘南の卒業生であり、ティンプーFCゴールキーパー、またナショナル代表にも選ばれているキンザン選手もスタッフとして帯同し、通訳兼で活躍しました。



ブータンアーチェリー代表チームのみなさん

●アーチェリー

2017年9月にはアーチェリーの第1回 ISPS Handa Cup が愛知県岡崎市で全日本アーチェリー連盟によって開催され、世界こども財団、そして星槎グループは全日本アーチェリー連盟と共同し、ブータン王国からリオオリンピックに出場した女子アーチェリーのカルマ選手他3名、そしてコーチ2名の計6名を招聘しました。日本代表選手が多く参加する中、個人戦では男子コンパウンド部門でタンディン選手が見事優勝。またリオオリンピックであるカルマ選手は、日本代表選手との混成チームで女子団体優勝を果たしました。滞在期間中には星槎名古屋中学校や星槎国際高校名古屋学習センターにも訪問、国際交流プログラムに参加しました。また、愛知産業大学・付属三河高等学校との合同練習も全日本アーチェリー連盟ご協力のもと実施しました。大会後は、「SKY プロジェクト第5弾」として小田原市内の高等学校で、弓道部の生徒たちと交流を図りました。



セイサ・デパートメンタル・バレーボール・トーナメントで競う選手たち

●バレーボール

2017年10月、ブータンの首都ティンブーにて、「第一回セイサ・デパートメンタル・バレーボール・トーナメント」というバレーボール大会が開催されました。私立学校の先生、警察の方、スポーツ団体の職員などがチームを作って参加する大会で、星槎グループがスポンサーとなって実現したものです。主催するBOCとブータンバレーボール連盟(BVF)としては、本イベントの開催の決定を契機に、バレーボールを活用した地域・経済活性化への期待を高めると共にスポーツを地域資源として活用し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図ることも期待しています。

ブータン王国ではバレーボールが球技スポーツの中でサッカー、バスケットボールに次いで3位と人気競技ですが、誰もが気軽に参加できる大会がないことから今回の開催に至りました。

●射撃

2017年12月、エアガン競技の国際大会「第10回アジア・エアガン選手権大会」が和光市で開催されました。エアガンを含む射撃は2020年東京五輪・パラリンピックの正式競技です。同大会は2020年に向けたプレ大会に位置づけられ、国内開催は初めて。アジアの国と地域に招待国のイタリアを加えた過去最高の計27の国と地域、約600人の選手・役員が参加、過去最大の規模となりました。

日本ライフル射撃協会のご協力のもと、ブータンからリオオリンピックのレンチュ選手とドルジコーチが来日しました。大会が終わったあと、選手とコーチは更に日本代表選手団との合同トレーニングに参加しました。(FGC石田 博彰)



アジアエアガン大会の様子



国際交流・支援活動報告 スポーツ奨学生プログラム

エリトリア、ブータンから 新しい留学生が来日しました!

エリトリア国、ブータン国から 新しい仲間が加わりました。

エリトリア国出身のケセテ・ハプテション・ベルハネ君、そしてブータン国出身のゴマ・プラダンさんは、星槎道都大学陸上部に所属します。冬の間は大磯に滞在し、星槎国際高等学校湘南の留学生と共に、日本語の学習や練習に励み、この春いよいよ北海道へ。二人は日本でトレーニングをし、日本語をはじめさまざまなことを学び、同世代の日本の学生たちと生活をする経験を通して、スポーツだけでなく、日本の文化や心を学んでいきます。彼等の活動は母国の子どもたちの夢を広げ、また日本との友好関係をさらに深めていくことでしょう。



来日早々、陸上部の練習に参加するケセテ君（写真左から3番目）とゴマさん（左から4番目）

2020 東京オリンピック・ソリダリティ 特別プログラムが発表されました!

日本オリンピック委員会（JOC）と国際オリンピック委員会（IOC）の2020東京オリンピック・ソリダリティ特別プログラムに星槎の留学生、ゴマ・プラダンさん（星槎道都大学）、デジェン・テスファレ

ム君、そしてアヌール・モハメド・アタ君（ともに星槎国際高校湘南）が選出され、2017年11月28日に記者会見に参加しました。このプログラムは、オリンピック開催国がホストとなり途上国のアスリートを受け入れ、競技力向上を図りながら、若者がお互いの文化や状況を共有して相互理解を深めていくことを目指すものです。

デジェン君は、「エリトリアは小さく貧しい国ですが、その中でも良い結果を出すために頑張ります。」とやや緊張気味に語りました。

ゴマさんは「ブータンは、今までオリンピックに陸上選手を輩出したことがなく、プロフェッショナルなアスリートも、コーチもいません。私は真面目に、一生懸命に練習し、東京2020大会では初のオリンピック・ブータン代表として参加できるようになりたいです」と決意を語りました。

世界子ども財団と星槎グループは、JOC、IOC、日本陸上競技連盟のご協力をいただきながら、オリンピック出場を目指して頑張る留学生選手たちをこれからも応援していきます。（FGC 小野木 愛）



ソリダリティ記者会見で、JOC 竹田恆和会長、金メダリストの高橋尚子さん、山下泰裕さんと一緒に



さらなるスポーツ・コラボレーション へ向けて



SEA Games で銀メダルを獲得したエー・エー・アウン選手

世界子ども財団では、昨年2017年4月にミャンマーオリンピック委員会とスポーツ・コラボレーションの協定を結び、スポーツを通じた同国の青少年育成支援を開始しました。これまでにミャンマー陸上競技代表チームに中長距離のコーチを長期派遣したほか、2017年7月には約1カ月にわたり、北海道の星槎道都大学柔道部にて柔道代表チームの合同強化合宿受け入れを実施し、柔道代表チームの女子選手1名が、2017年8月の東南アジア競技大会で銀メダル(78kg級、エー・エー・アウン選手)を獲得するなど、実績を上げています。

今年2月にはミャンマー連邦共和国の首都ネピドーを再訪問し、今後の協働について提案と協議を行いました。近日中にオリンピック委員会の視察団を日本に招待し、星槎グループと神奈川県各施設の視察や、さらなる協議を行う方向です。また、ミャンマーからのスポーツ留学生受け入れも今後実施予定です。

ミャンマーは「アジアのラストフロンティア」と呼ばれ、目覚ましい発展を遂げようとしている一方、大きな変動のなかで、様々な社会問題も深刻化しています。2020年を一つのきっかけとして、世界子ども財団は、さらに未来を見据え、スポーツを通じたミャンマーの青少年育成、そして両国の友好関係のために活動していきます。
(FGC 石井洋祐)



コーチ帰国後には駐日ミャンマー大使館に訪問、トゥレイン・タン・ジン大使に活動報告を行いました

北の大地に会いに行こう!!2017



東日本大震災を経験したこどもたちを元気づけようと始まったこの事業は、今回で11回目を迎え、これまでに参加した児童、生徒は延べ450名を越えました。また、今回は定員40名のところ、100名以上の応募があり、年々応募者が増えています。

1日目

相馬市民会館出発、仙台港フェリー

こどもたちは緊張している様子もありましたが、話を聞くと、緊張以上に北海道旅行に期待を持って参加しているようでした。中には宿泊行事自体が初めての子もいました。フェリー内では眠れない子もいましたが、食事や施設が充実しており、安心して時間を過ごすことができました。

2日目

苫小牧港到着、星槎国際スクーリングセンター到着、つどい、レクリエーション

フェリーで眠れず、体調不良が心配されましたが、むしろ元気に活動していました。芦別市へ行く途中のパーキングエリアでは、雪を見るなりはしゃいでしまう姿が印象的でした。スクーリングセンターに到着後、荻原 貢芦別市長からご挨拶、星槎国際高等学校 前田 豊校長からご挨拶がありました。芦別市、星槎グループが全面的に協力して、この企画を実施しています。夕食では、特に男子は取り合うように海鮮手巻き

を食べ、完食していました。夕食後のアイスブレイクでは、レクリエーションを行い、知らない子同士のつながりを持つきっかけとなりました。

3日目 ケーキ作り、雪遊び、クリスマスパーティ

ケーキ作りでは、各班様々な個性を発揮して、繊細・大胆な発想の作品を作り上げました。完成後、各班からの発表会もしました。この日は天候が悪く、雪遊び

を途中で切り上げ、屋内でレクリエーションを実施しました。クリスマスパーティでは、市職員がサンタになってじゃんけん大会。全員にプレゼントが渡されました。笑い声が絶えない一日でした。

4日目

スキー体験、温泉入浴

市職員・星槎職員・芦別スキー連盟の総勢60名の大人がサポート。かなりの悪天候でしたが、午前中はスキー体験をしました。午後はリフトなしのスキーと雪遊びにわかれて活動しました。いずれも楽しく活動ができたようで、しおりの楽しかったランキングでスキー・雪遊びが上位に入っていました。温泉については、悪天候により当初の予定より長く滞在することになりましたが、リニューアルしたスターライトホテルの施設が充実しており、満足の声が多く聞こえました。

5日目

星槎国際高等学校にて高校生と一緒に活動

大根抜きや警察と泥棒などのレクリエーションで体を動かしました。北海道弁かるたは好評で、大いに盛り上がり予定時間が過ぎてしまうほどでした。高校生が加わると、疲労感漂う空気も一変し、楽しく元気に過ごすことができました。体育館での活動では、友人同士で走り回る姿があり、まだまだ体力が余っているようです。おそろべし、こどもの体力。

6日目

振り返りタイム、つどい、苫小牧港フェリー

振り返りタイムでは、全員が集中して、文章や絵をかいていました。今年度も皆の想いのつまったパネルを完成させることができました。スキー体験が人気で思い出に残ったと書いている子がたくさんいました。その他、雪遊びと、悪天候の状態がむしろ思い出に残ったようです。つどいでは、芦別市長、星槎国際高等学校校長からのご挨拶があり、三つの約束の話がありました。参加者は必ずしも同じ学校ではありません。この出会いを大切にまた芦別市へお越しくださいとありました。

私は福島支援事業の初回から受け入れとして携わってきましたが、今回初めて、事前説明会、さらにフェリーからの引率を経験しました。この事業が芦別市全面協力のもと、多くの方によって成り立っていることを、改めて実感しました。芦別市には大変感謝いたし



ます。星槎の源「関わり合い」がこの事業にはつまっています。

参加者のみなさん、長旅お疲れ様でした。中には宿泊行事自体、初めての人もいましたね。また、ぜひ芦別市へ、星槎へ遊びに来てくださいね！

(星槎国際高等学校 加藤 兼司)

2017年度 世界子ども財団活動報告会を開催しました

2017年12月14日、大磯プリンスホテルにて、2017年度世界子ども財団の活動報告会および懇親会を開催しました。

今年度の一番大きな報告としては、やはりエリトリアとブータンからスポーツ留学生が来日したことではないでしょうか。1月にエリトリアから星槎国際高等学校湘南にアヌール君とデジェン君、5月に星槎道都大学にヤレド選手、9月にケセテ君、そして、10月にはブータンからゴマさんが来日しました。12月現在で、高校生2名、大学生3名が星槎で勉強をしながら陸上

競技のトレーニングに励んでおります。また懇親会では、あらためて宮澤理事長の外務大臣表彰受賞のご報告、留学生紹介をさせていただきました。

留学生たちはしっかりとした日本語で「日本で勉強をしながらオリンピックを目指します！」と意気込みを語ってくれました。このように、留学生を招へいすることが出来たのも、何よりも皆様からのご理解とご協力のおかげです。心より感謝申しあげるとともに、今後ともご協力よろしくお願い申しあげます。

(FGC 太田啓孝)



事務局より2017年度の活動を報告



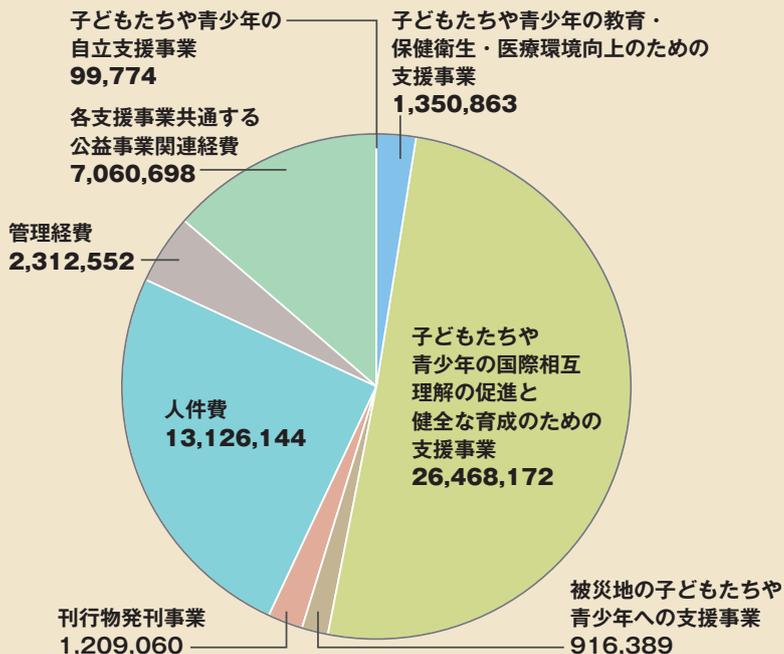
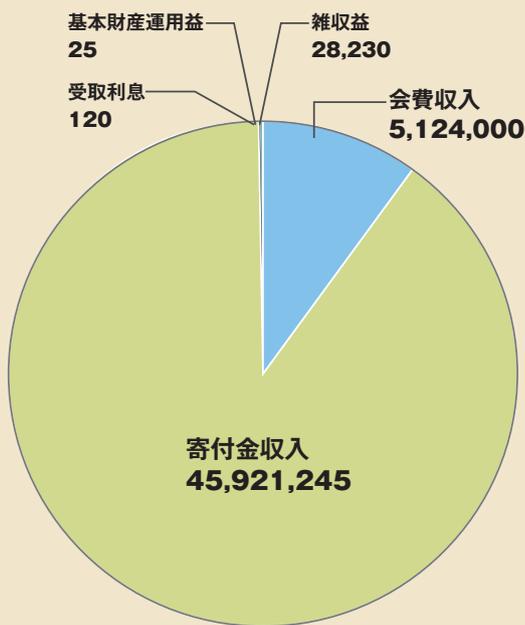
留学生から意気込みを発表！

(写真左より：アヌール君、デジェン君、ケセテ君、ゴマさん)

事業活動収支報告 (2017年1月1日～2017年12月31日/単位:円)

収入【51,045,390円】

支出【52,543,652円】



※上記内訳は、「2017年1月1日～12月31日の収支報告書」に基づき算出されたものです。

2017年6月～2017年12月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本	73,236	大磯 CA 茶綿手ぬぐい、竹販売	13,000
櫻井幸雄氏作カレンダー販売 収支差額より	30,000	収支差額より	
カード類 (テレカ・図書カード・各種金券等)	10,527	自動販売機 (販売社15社より) 売上より	1,794,053
合計	113,763	合計	1,807,053

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。

(2017年1月末)

ご協力いただいている企業・団体様 (順不同)

- アマチュア無線関係の皆様 ●(株)トキコ・プランニング ●(株)ルミネ ●(株)ルミネクリエイティブ ●コグメド・ジャパン(株) ●(株)全日警横浜支社 ●山下寝具(株) ●(有)オク・インターナショナル ●(株)興学社 ●(株)ユミーホールディングス ●東海プラント(株) ●はやし亭 ●フルサワ印刷(株) ●道東基礎工業(株) ●伊藤平左工門建築事務所 ●一般社団法人 日本ミャンマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●横浜リテラ ●(株)バリューブックス ●(株)湘南ウイル ●(株)ダイドードリンコ ●西武商事(株) ●コーシンサントリービバレッジ ●(株)八洋府中営業所 ●ココ・コーライストジャパン(株) ●ココ・コーラウエスト(株) ●北海道ココ・コーラポトリング(株) ●東京キリンビバレッジサービス(株) ●北海道キリンビバレッジサービス(株) ●キリンビバレッジバリューバンダー(株) ●北海道ペンディング(株) ●(株)ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事(株) ●(有)安田コーポレーション ●大蔵屋商事(株) ●FVイーストジャパン ●合同会社SV北陸 ●(有)山川屋 ●武蔵野学院 ●ワットマンスタイル二宮店 ●ツルセミ ●みんな電力(株) ●(株)プリンスホテル ●箱根建設(株) ●(株)JTB コーポレートセールス ●富士屋ホテル(株) ●(株)アストロ ●(株)プロコミュニケーション ●(有)ケンセー ●(株)大塚商会 ●東京体育用品(株) ●共栄建設(株) ●(株)カナオリ ●トレーラーハウスデベロップメント(株) ●(株)g-3 ●サントリービバレッジ(株)北海道営業本部 ●三基工業株式会社 ●浜松帝国警備保障(株) ●(有)丁 ●京都ハウジング(株) ●学びリンク(株) ●NPO 法人トータルケアセンター ●(有)左衛門 ●(株)ドリーム ●学校法人田島学園

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

上から ● SAAB2017 フィナーレで留学生と来場者がハイタッチ ● 大阪マラソンで優勝したエリトリアのカレア選手 ● 宮澤理事長とエリトリア文化スポーツ庁長官ゼメテ氏、農業大臣アレファイネ氏 ● オリピックソリダリティ記者発表に出席した留学生 ● ISPS ハンダカップに出場したブータンのアーチェリー代表選手



2018年4月発行

公益財団法人 世界子ども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)
 TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp
 ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界子ども財団」で検索!
 印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

